

「あいちデジタルヘルスプロジェクト」実証事業PR支援制度報告書

# フレイルを未然に防ぐ「手軽にチェック、気軽にカイゼン。」 パーソナライズドニュートリションサービス事業のトライアル実証

ソフトバンク株式会社

2025年10月31日

## 担当者情報

- ソフトバンク株式会社 法人事業統括  
法人事業戦略本部 ヘルスケア事業統括部  
事業推進部 事業開発課
- 葛山 樹 (クズヤマ タツキ)
- 090-3022-0850
- tatsuki.kuzuyama@g.softbank.co.jp

様式1

# 報告書

2025年 10月 31日

あいちデジタルヘルスコンソーシアム事務局 殿

実証事業の結果を報告します。

また、本報告書の内容について、愛知県イノベーション企画課HP上に公開することを了承します。

<連絡先>

所属(部署名):法人事業統括 法人事業戦略本部 ヘルスケア事業統括部 事業推進部 事業開発課

担当者役職名: 課長

担当者氏名(フリガナ): 葛山 樹

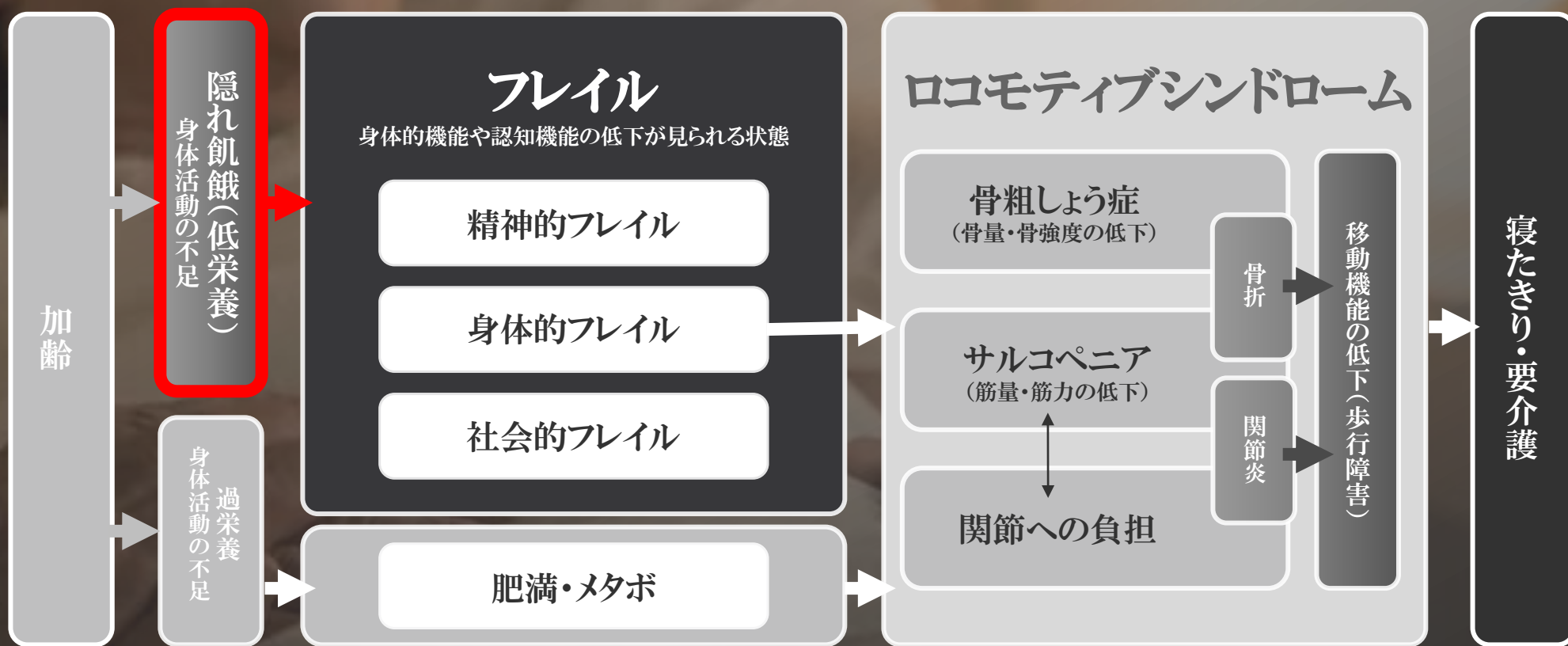
電話番号: 080-3022-0850

E-mail:tatsuki.kuzuyama@g.softbank.co.jp

# 実証事業の背景

状態把握 や 栄養指導

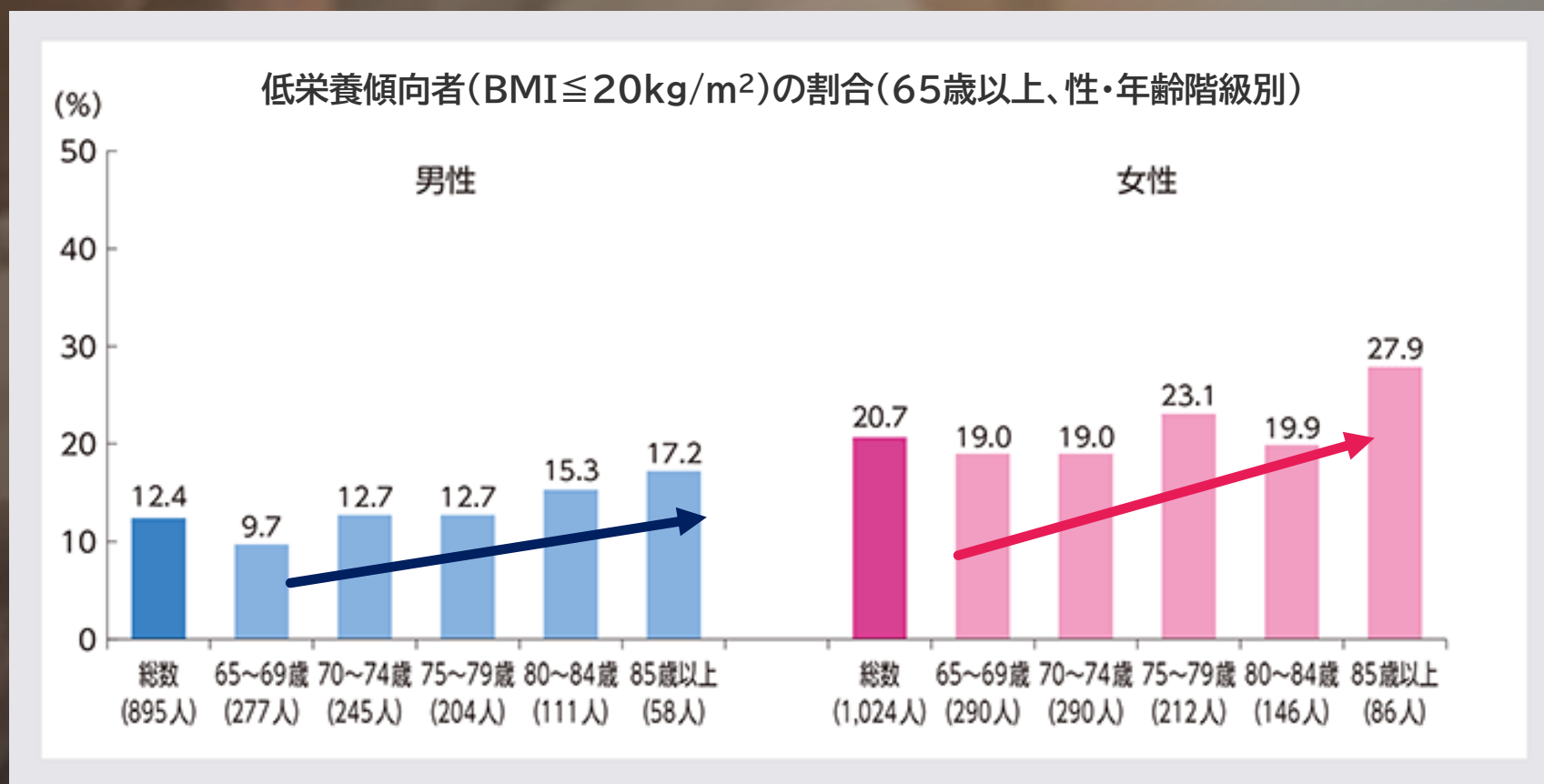
## フレイル予防において “日々の栄養管理” は重要なアプローチ



参考：アクティブシニア「食と栄養」研究会 ロコモティブシンドローム、サルコペニアへのスパイラル (2024)

## 実証事業の背景

### 高齢者の低栄養は顕著であり、食事を通じた栄養改善が喫緊の課題



参考：厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査」

# 実証事業の目的

## 即時栄養検査（ユーリア）のフレイル予防活用への有効性の検証



「知る→体感→納得」による行動変容のきっかけ提供  
 ～栄養状態の可視化によるリテラシー向上と意識改革～

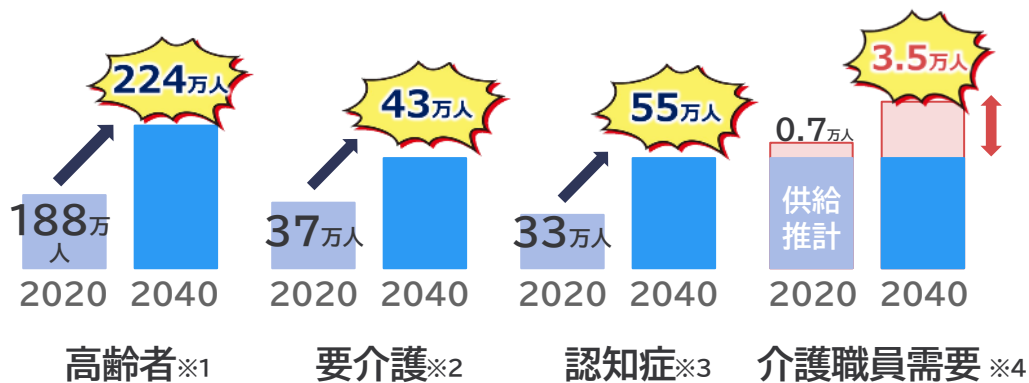
栄養状態の可視化      自発的な行動変容

テーマ  
 “隠れ飢餓”  
 の予防

課題  
 2040年 超高齢化社会の到来

目指すべき姿  
 誰もが安心して、元気に暮らせるあいち  
 健康長寿産業都市あいち

医療や介護が必要な人々が急増 担い手は大幅に不足



人々が健康になる地域文化(環境・習慣)がある

- 健康診査の受診を始め、健康意識を持つことが当たり前
- いつでもどこでも必要なヘルスケアサービスを受けることができる
- 普段の生活の中で使うサービスを通じ、自然に健康になる
- 容易に自身の健康状態を把握でき、運動・認知機能の低下予防行動が習慣化されている

※1【資料】～2015「国勢調査」(総務省)、2020「あいちの人口(2020年10月1日現在(推計人口))」(愛知県)、2025～「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所) ※2020年までの総人口は、年齢不詳を含むため、年齢区分の合計とは一致しない ※2【資料】愛知県「第8期愛知県高齢者福祉医療計画(2021年)」 ※3有病率：厚生労働省健康局「日本における認知症高齢者人口の将来推計に関する研究」(2015年1月27日)による速報値 ※4【資料】愛知県「第8期愛知県高齢者福祉医療計画(2021年)」

# 実証事業（サービス）のコンセプトテーマ

【隠れ飢餓の予防】 「知る→体感→納得」による行動変容のきっかけ提供  
～栄養状態の可視化によるリテラシー向上と意識改革～



## 自分のカラダの状態を知ってもらう

現在の栄養状態の把握とや食べたものによる検査数値変化を体験

## 実践による効果を体感してもらう

すぐに変化する栄養素と変化しづらい栄養素があることを知る

## カラダと栄養の理解度を向上させる

長期的に取り組むべき栄養素(特にフレイルでは重要)があることに理解と納得を

# 実証事業の全体像

目的：プロトタイプサービスの構築、トライアルを通じた各種ビジネス係数の取得



## 実証フィールド協力

<対象者>  
50歳以上の市職員 ※詳細別添

<被験者規模>  
20~50名程度

<検証期間>  
2025年5月~6月(1か月)

<検証方法>  
サービスプロトタイプ利用による  
各各種数値取得  
事後のアンケート

### 主な検証項目・KPI

プログラム有用性  
(=数値向上率 30%)

サービス受容性  
(=継続意向率 40%)

健康意識の変化・理解度向上  
(向上率 50%)



## フレイル予防 検査プログラム



## 商品レコメンド プログラム



フレイルを未然に防ぐ  
「手軽にチェック、気軽にカイゼン。」  
パーソナライズド  
ニュートリションサービス事業

PR支援制度

1

フレイル予防  
検査プランの開発

医療機関監修

2

商品レコメンド  
プログラムの構築

管理栄養士監修

結果をシェアし共創促進

## フレイル予防領域

TAM 2.5兆円

### 医療介護市場



入居者管理・予防サービス

### メーカー・小売市場



健康食品の開発/マーケ

### 保険市場



新商品開発、料率、マーケ

### 製薬・創薬市場



創薬・製薬、販促・調査

# 提供プログラムの概要

フレイルと密接な栄養項目のモニタリングと  
栄養状態にあった推奨食の提供プログラムを提供



フレイル予防検査  
プログラム



研究者/医師監修の  
ウイークリーの尿検査プラン

カルシウム

マグネシウム

ビタミンC

水分

酸化ストレス

など

総合判定と  
各項目の  
10段階評価

週に1回 自宅で実施

商品レコメンド  
プログラム



管理栄養士/医師監修の  
推奨食提供

ミネラル  
補給商品  
セット

ビタミン  
補給商品  
セット

結果に応じて  
毎週1000円分  
相当の推奨食配布

庁舎で商品受け取り



# 実証事業の実施内容

## 大府市役所ご協力のもと 1か月にわたりホームユーステストを実施

### 週に1度自宅にて検査

習慣化

被験者に向けユーリアの検査キットを事前配布

### 検査結果を確認

理解度  
向上

ご自身で各検査項目を確認。  
栄養状態の傾向を把握

### 結果別の推奨食を受け取る

アクション

本件の窓口で結果に応じて推奨食を受け取り

### 生活改善

生活改善

日々の生活に改善を取り入れていただく

### 概要

実証期間

2025年5月19日(月)~6月20日(金) 1ヶ月間(4回の検査&推奨食提供)の実施

検証内容

1. 50歳以上の男女の栄養傾向
2. フレイル予防に資する栄養項目に関する改善傾向の観察
3. 可視化ツール(検査サービス)がもたらす、健康意識や行動変容への影響
4. サービスの受容性(満足度/継続意向、価格、希望付帯サービスなど)

参加人数

23名

参加条件

- 以下条件を満たす方
- ・50歳以上の男女
  - ・大府市職員の方(庁舎勤務以外の方も含む)
  - ・1ヶ月間の実証にご協力いただける方、参加後にアンケートにご協力いただける方
  - ・以下に該当しない方
    - 慢性疾患を有し薬物治療を受けている方、重篤な疾患既往歴がある方  
(例:糖尿病、高血圧、高コレステロール血症、喘息、関節リウマチ、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、うつ病および不安障害など)
    - 食品アレルギー等を有する方、医師より食事指導を受けている方

# 実証事業の実施結果

## 1. 被験者情報

- 1-1. 被験者性年代別集計
- 1-2. 応募・参加理由
- 1-3. 抱える健康課題
- 1-4. サービスターゲット示唆

...

P.10、11

## 2. 検査結果分析

- 2-1. 状態変化
- 2-2. 栄養検査データ結果(開始→最終)

...

P.12

## 3. 満足度・意識変化

- 3-1. 満足度と継続意欲
- 3-2. 栄養知識・意識の変化

...

P.13

## 4. 健康課題への寄与

- 4-1. 健康課題別向上体感値

...

P.14

## 5. サービス評価

- 5-1. サービス継続意向
- 5-2. NPSスコア
- 5-3. 希望購入価格

...

P.15、16

## #. Executive Summary

...

P.17

# 実証事業の実施結果

フレイルと関連の高い健康課題を持つ50代60代の男女22名が参加。  
自己理解・セルフモニタリングへの関心が強い層が中心。

## 1-1. 被験者性年代別集計

年齢層	男性	女性	合計
50~54歳	6	3	9
55~59歳	5	4	9
60~64歳	1	3	4
合計	12	10	22

## 1-2. 応募・参加理由

応募理由	人数
自身の栄養状態を知りたかったから	10
健康状態が気になっているから	5
新しいサービスに興味を持ったから	3
推奨食が欲しかったから	2
自身の栄養状態を知りたかった+健康状態	1
栄養状態・健康状態・サービス興味複合動機	1

## 1-3. 抱える健康課題

健康課題	人数
疲れやすさ・倦怠感	6
体重管理・ダイエット	5
関節や筋肉の衰え・運動機能の低下	4
免疫力の低下	3
睡眠の質の低下(不眠・寝つきの悪さ)	1
アレルギーや花粉症	1
生活習慣病(脂質代謝異常)	1
血圧・血糖値の管理	1

### ◆傾向まとめ

- ✓ 最も多いのは「疲れやすさ・倦怠感」(27%)。
- ✓ 続いて「体重管理・ダイエット」(23%)。
- ✓ 筋肉・運動機能系の課題も目立ち、活動力や代謝関連の悩みが中心。

## 実証事業の実施結果

サービス関心度の高い層は、目的意識の高い層(自己改善・実験志向)と、穏やかな健康維持層(内省・安定志向)に二分される構造。

### 1-4. サービスターゲット示唆

健康意識のタイプ	自身の栄養状態を知りたかった	健康状態が気になっている	新しいサービスに興味を持った	推奨食が欲しかった	複合動機(複数選択)	合計
ストレスを減らし、心穏やかに過ごしたい	0	0	1	0	0	1
体内環境を整え、内側から健やかに	2	1	0	2	0	5
健康的な習慣を取り入れ、周囲にも良い影響を	2	1	0	0	1	4
年齢相応に変化に向きあって暮らしたい	1	2	1	0	0	4
心身ともに元気で活力ある日々を過ごしたい	5	1	1	0	1	8
合計	10	5	3	2	2	22

#### 応募動機別の特徴

- 自身の栄養状態を知りたかった」層(10名)
  - 最も多く、特に「心身ともに元気で活力ある日々を過ごしたい」タイプに集中。
  - 健康維持・改善への前向き意識が強い。
- 「健康状態が気になっている」(5名)
  - 「年齢相応に変化に向きあう」や「体内環境を整えたい」など、慎重で内省的な健康意識層が多い。
- 「新しいサービスに興味を持った」(3名)
  - 「心身ともに元気で活力ある」「年齢相応に暮らしたい」層に分布し、実験的・トライアル志向が見られる。

#### サービスに対し興味を持つ人のインサイト

- ✓ 「心身の活力維持」タイプが最多で、行動意欲・実践意識の高い層。
- ✓ 「体内環境を整えたい」「年齢相応に向きあう」タイプは、健康維持の安定志向が強い。

# 実証事業の実施結果

63.6%の被験者がスコア改善を示し、  
特にマグネシウム・カルシウムなど筋肉・代謝関連項目に改善傾向。

## 2-1. 状態変化

指標	数値
対象者数	22名
改善者数	14名
悪化者数	7名
変化なし	1名
改善者割合	63.60%
悪化者割合	31.80%

最も改善した被験者  
改善量: +14点(100点満点換算)

最も悪化した被験者  
スコア変化: -19点(100点満点換算)

## 2-2. 栄養検査データ結果(開始→最終)

10段階のスコアリンク

フレイル関連	項目	全国平均	初回平均	最終回平均	改善量
★	マグネシウム	5	2.27	3.36	1.09
	塩分	6	7.23	7.86	0.63
★	カルシウム	2	5.14	5.45	0.31
★	ビタミンC	4	5.27	5.5	0.23
★	野菜摂取量	2	5.27	5.36	0.09
	脂肪燃焼	3	4.32	4.36	0.04
	糖質	6	6.68	6.64	-0.04
	水分	3	8.91	8.73	-0.18
★	酸化ストレスレベル	10	9.00	8.73	-0.27
★	亜鉛	1	3.73	3.41	-0.32

## 2-3. 総合評価

特にマグネシウム・カルシウム・ビタミンCの改善は、  
筋肉・免疫・抗酸化の3側面からみてポジティブ。  
一方、酸化ストレスレベルと亜鉛の悪化が一部に見られ、  
全体のフレイル予防効果をやや相殺

## 実証事業の実施結果

「満足」層の83%が「継続したい」と回答し継続意欲に明確に結びついている。  
また、被験者全体のうち64%は実証後に健康意識や知識について向上したと回答。

### 3-1. 満足度と継続意欲

	継続したいと思う	どちらともいえない	継続しないと思う	合計
満足	10	1	1	12
どちらともいえない	2	4	1	7
不満	0	1	2	3
合計	12	6	4	22

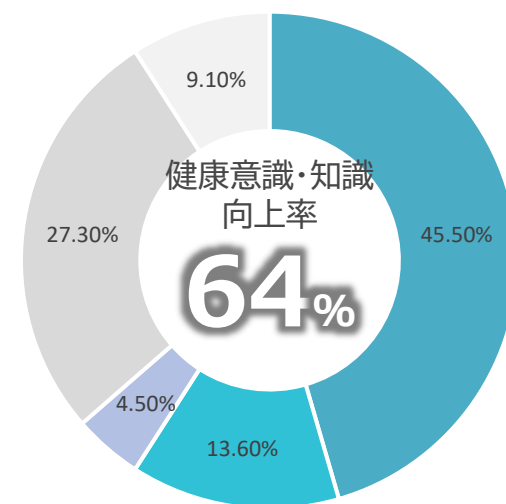
#### 【ポジティブ意見】

- ・ 短時間で健康状態が確認でき、毎回どんな推奨食がもらえるのか楽しみだった
- ・ 自分に不足している栄養素が分かってよかった
- ・ 接種する食べ物、飲み物によって数値に変化がみられた

#### 【ネガティブ意見】

- ・ 栄養素と推奨食の関係が十分に理解できなかった
- ・ 推奨食の効果を感じなかった
- ・ 栄養検査の精度が不明なため

### 3-2. 栄養知識・意識の変化



- 向上した
- やや向上した
- とても向上した
- あまりなかった
- どちらともいえない

## 実証事業の実施結果

全体の6割が栄養状態の改善を実感し、特に『体重管理・免疫力』で成果が顕著。  
一方、疲労や筋肉関連などの“体感型課題”では改善実感が得にくかった。

### 4-1. 健康課題別向上体感値

健康課題	とても改善した	改善した	やや改善した	どちらともいえない	改善しなかった	合計
疲れやすさ・倦怠感	0	2	1	2	1	6
体重管理・ダイエット	0	3	1	1	0	5
関節や筋肉の衰え・運動機能の低下	0	1	0	2	1	4
免疫力の低下	1	2	0	0	0	3
アレルギーや花粉症	0	0	0	1	0	1
睡眠の質の低下(不眠・寝つきの悪さ)	0	1	0	0	0	1
生活習慣病(脂質代謝異常)	0	1	0	0	0	1
血圧・血糖値の管理	0	0	1	0	0	1
合計	1	10	3	6	2	22

#### 「変化あり」層(とても改善した／改善した／やや改善した)

- ・全体の64%(14名)が「変化あり」。
- ・特に「体重管理・ダイエット」や「免疫力の低下」グループでは、**全員または大半が改善を実感**。
- ・「疲れやすさ・倦怠感」「関節・筋肉の衰え」層では、**変化実感がやや分かれる傾向**。

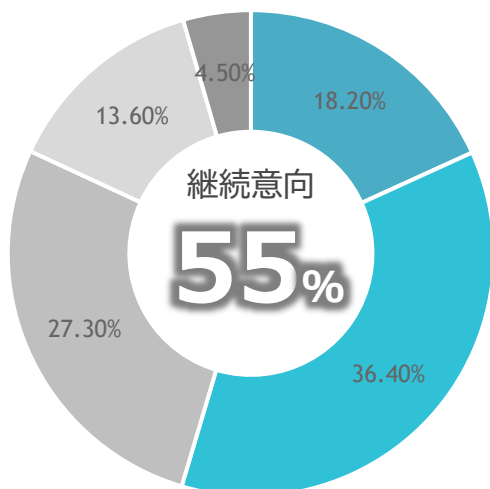
#### 「変化なし」層(どちらともいえない／改善しなかった)

- ・「疲れやすさ・倦怠感」や「関節・筋肉の衰え」では、**どちらともいえないが多く、体感や成果の実感が得にくい可能性**。
- ・一方で「免疫力」や「生活習慣病」など、比較的指標が明確な課題では**課題改善が高い傾向**。

# 実証事業の実施結果

半数以上がサービスを肯定的に評価しており、価値実感は一定水準に達している。  
一方で、推奨意欲(NPS)はまだ低く、継続・推奨の動機付け強化が今後の鍵

## 5-1. サービス継続意向



- 継続したいと思う
- やや継続したいと思う
- どちらともいえない
- やや継続したいと思わない
- 継続したいと思わない

- 半数以上がポジティブ意向を示しており、サービス価値への一定の評価が見られる。
- 一方で、「どちらともいえない」が3割近く存在し、明確な継続動機付けが不足。
- 特に満足度や価格感、効果実感を高める工夫が、継続率向上のカギとなる。

## 5-2. NPSスコア

区分	定義	割合
プロモーター(9~10)	強く推奨したい	22.70%
パッシブ(7~8)	中立的	22.70%
デトラクター(0~6)	推奨しない	54.60%

NPS = プロモーター率 - デトラクター率 = -31.8  
👉 **NPSスコア:-31.8**

業界	NPS®平均値	業界	NPS®平均値
医療保険	-56.3	自動車	-26.3
自動車保険	-43.3	ノートPC	-46.5
証券口座	-51.7	プリンタ	-63.1
銀行口座	-44.9	デジカメ	-19.9
クレジットカード	-46.1	キャリア	-28.5
エアライン	-36.8	ECサイト	-21.0
ウイルスソフト	-40.1	VOD	-14.0
放送局	-39.7	ゲームアプリ	-12.5
SNS	-25.3	17業界平均	-37.9

業界水準では  
悪くない数値であるが  
ユーザー目線では  
改善が必要

参考:マクロミル 業界ごとのNPS®平均値 ~「第1回NPS®業界横断自主調査」(2020)



## 実証事業の実施結果

金額負担は週1回500円まで。無料志向層では関心はあるが費用への抵抗が強い。  
継続意向の高い層は“自己改善型・知識向上実感型”が中心。

### 5-3. 希望購入価格

利用希望価格	継続したいと思う	どちらともいえない	継続しない	合計
無料なら使ってみたい	5	6	3	14
週1回500円までなら使ってみたい	7	0	1	8
週1回1000円までなら使ってみたい	0	0	0	0
合計	12	6	4	22

#### 「無料なら使いたい」層(14名/64%)

- 半数近く(6名)が「どちらともいえない」、3名が「やや継続したくない」と回答。
- 無料志向の参加者は、継続意欲が相対的に低い傾向。
- サービス体験には一定の興味を持つが、費用負担には抵抗感がある層。

#### 「週1回500円までなら使いたい」層(8名/36%)

- 7名(約88%)が「継続したい」または「やや継続したい」と回答。
- 料金負担を受け入れる層ほど継続意欲が高い。
- サービス価値を認め、ある程度の金銭的コミットが可能な層といえる。

✓実証後、「管理栄養士による個別栄養相談会」への申し込みが2件

# 実証事業の実施結果

## 被験者情報(顧客ニーズ)

行動意欲・実践意識層と健康維持の安定志向層からの「栄養状態を知りたい」ニーズ

## サービスの健康増進効果

64%の被験者がスコア改善筋肉・代謝関連項目に改善傾向

## 健康意識・知識への貢献

被験者全体のうち64%は実証後に健康意識や知識について向上

## 健康課題への寄与

全体の6割が栄養状態の改善を実感し、特に『体重管理・免疫力』で成果が顕著。  
一方、**疲労や筋肉関連などの“体感型課題”では改善実感が得にくかった。**

## サービス評価

半数以上がサービスを肯定的に評価しており、価値実感は一定水準に達している。  
一方で、**推奨意欲(NPS)はまだ低い**

## 新たな発見

「管理栄養士による個別栄養相談会」など、人的サポートサービスとの相性も良い

## KPIの達成状況

	<u>プログラム有用性</u>	<u>サービス受容性</u>	<u>健康意識・理解度向上</u>
KPI	スコア改善率 <b>30%</b>	継続希望率 <b>40%</b>	意識・知識向上率 <b>50%</b>
結果	スコア改善者割合 <b>63.4%</b> 達成率 <b>211%</b>	サービス継続意向者率 <b>54.6%</b> 達成率 <b>137%</b>	栄養知識・意識の変化率 <b>63.6%</b> 達成率 <b>127%</b>
評価	今回の実証では、6割以上の方の状態改善が確認できたほか、サービスに対して半数以上が継続意向を示すなど、価値認知などに想定以上の成果が見られました。一方で、推奨意欲を示すNPSは-31.8と、やや低い結果となっています。体験価値を“他者に勧めたいレベル”にまで高めるためには、効果実感の強化やパーソナライズ体験の深化が今後の課題と考えられます。		

## 今後の方向性

「可視化 × パーソナライズ × 専門家支援」で“栄養セルフケアの社会実装”へ。  
『手軽にチェック、気軽にカイゼン』する健康習慣の定着を次フェーズで実現。

### ① サービス改善の方向性

#### 改善の方向

- 体感価値の強化 疲労・筋肉など“実感しづらい領域”に対し、変化を見える化するデータフィードバックを強化(例:AIアドバイス)。
- 参加者全体の栄養状態・改善率・意識変化をリアルタイムで可視化。(管理者ダッシュボード・重点支援層の抽出機能)
- 専門家連携の拡充 管理栄養士・医師とのオンライン相談、LINE連携など人的サポートを加え、継続利用を後押し。

### ② 事業化に向けた展望

#### 方向性の具体化

- ターゲット拡大  
企業健康経営・自治体保健事業・介護予防プログラムへの展開。
- サービスモデル  
初回無料 → 定期利用(サブスクリプション型)  
尿検査+食事+栄養相談を組み合わせたトータルパッケージ化
- データ利活用  
匿名化データを活用し、地域・年代別の栄養トレンド分析を進める。

### ③ 社会的意義と中長期目標

本サービスは、“未病・フレイル予防”の実践モデルとして、健康寿命延伸と医療費抑制の両立に寄与できる可能性を持っています。今後は、愛知県以外の自治体・医療機関・企業とも連携し、日常生活の中で誰もが自分の栄養状態をモニタリングできる社会の実現を目指します。

以上